

「地域と共に生きる酒蔵 — 東の麓酒造の挑戦と未来」

東の麓酒造有限会社 常務執行役員 新藤栄一氏



1. 南陽の地に根ざす酒蔵

東の麓酒造は、南陽市市内の熊野大社にも程近い地に蔵を構えております。創業1896年(明治29年)、今年で130周年を迎えました。宮内町の遠藤家が、それまで酒造りをしていた在郷商人から酒造部門を引き継ぎ創業。平成29年、前社長、遠藤孝蔵氏の死去に伴い出羽桜酒造の仲野益美が代表取締役役に就任し現在に至っております。

ここ置賜は盆地特有の寒暖差と清らかな地下水、良質な酒米という、日本酒造りにとって理想的な条件がそろった場所です。現在、置賜地区で自釀している酒蔵は15社ほどになりましたが昔は20社くらいあったそうです。山形県の他の地区と比べても多くの酒蔵があったという事で、酒造りに適した土地なのでしょう。

私たちのような造り酒屋は地酒蔵と呼ばれますが、その殆どは冬の寒い季節にお酒を仕込みます。冬の厳しい寒さは、雑菌の繁殖を抑え、繊細な発酵を可能にするからです。「自然が蔵人である」これは酒造りの世界でよく言われる言葉ですが、まさに置賜盆地は酒造りに選ばれた土地だと言えるでしょう。

御地、高畠町でもブドウや、ワインの産地としても有名ですが、南陽市にも現在ワイナリーが6社あります。日本酒蔵は残念ながら弊社1社となっていますが、昔は酒造りが盛んな土地でもあったので、私の子供のころは4社もありました。今は、日本酒にとってと言いますか、アルコール業界にとって厳しい時代となっています。

2. 伝統と革新の両立

日本酒業界は、戦後の最盛期と比べると出荷量は大きく減少しています。消費の多様化、若者のアルコール離れ、人口減少――。こうした厳しい環境の中で、東の麓酒造は「品質重視」「個性重視」の酒造りへと舵を切りました。

- 大量生産ではなく、
- ・米の個性を活かす
- ・小仕込みで丁寧に醸す
- ・香りと味わいのバランスを追求する・
- ・東北芸術工科大学とのコラボレーション

こうした姿勢が、県内外の評価につながっています。

3. 地域と共に歩む経営

ロータリークラブの皆様にぜひ共有したいのは、「地域とともに生きる」という視点です。東の麓酒造は、単に酒を造る会社ではありません。

- ・地元農家と連携した酒米づくり
- ・地域イベントへの協賛
- ・観光との連携
- ・蔵見学の受け入れ

酒蔵は、地域文化の発信基地でもあると自負しています。観光客が蔵を訪れ、酒を味わい、南陽の風土を知る。その体験が、地域の価値を高めていくと考えています。

4. 日本酒の可能性

ここで少し視点を広げてみたいと思います。日本酒は今、海外で高い評価を受けています。和食のユネスコ無形

文化遺産登録以降、輸出は拡大傾向にあります。山形県は全国有数の酒どころです。その中で東の麓酒造も、海外市場への展開を視野に入れています。現在はアメリカ、タイ、シンガポール、イタリア、スペイン、などに輸出をし、徐々に輸出数量拡大を図っています。

日本酒は単なる「アルコール飲料」ではないと考えています。それは、世界で一番流通しているワインとも通じるところがありますし

- ・農業
- ・発酵文化
- ・職人技
- ・日本人の美意識

これらを凝縮した文化そのものだと思っています。

5. これからの酒蔵の役割

- では、これから酒蔵はどのような存在であるべきでしょうか。私は、三つの役割があると考えます。
- ① **文化を守る** 伝統的な技術を次世代へ継承すること。
 - ② **地域経済を支える** 雇用、農業連携、観光振興への貢献。
 - ③ **挑戦し続ける** 新しい酒質、新しい市場、新しい価値の創造。

伝統とは、守るだけでは衰退します。挑戦してこそ、生きた伝統となります。

6. ロータリアンの皆様へ

ロータリークラブは、「超我の奉仕」を理念とする団体とお聞きしています。地域に根差し、地域を支え、未来へつなぐ。その姿勢は、酒蔵の在り方と通じるものがあります。地元企業を応援することは、単なる消費ではありません。それは、地域文化への投資です。

「一本の酒の向こうに、農家の努力があり、蔵人の技があり、置賜の南陽の風土があります。」

7. 結びに

東の麓酒造は、この時代に残った南陽市唯一の酒蔵です。しかし、それを誇りにできるかどうかは、私を含め地域の人間の関わり方にかかっています。

- 「地元の酒を知る」
 - 「地元の酒を語る」
 - 「地元の酒を選ぶ」
- その積み重ねが、未来をつくります。

皆様は、お酒を飲む機会が沢山あると思います。その時には地元企業を応援し、地域文化に投資している事を、ちょっとだけ思い出しながら楽しく飲んでいただけたらと思います。

私の拙いお話ではありますが、皆様にとって改めて地域の価値を見つめ直す機会となれば幸いです。

今回の例会 [2770 th] 2026. 3. 19

移動例会

ひっぱりうどん例会

場所: 高砂屋珈琲店

Rotary

Rotary International District 2800
2025-2026 TAKAHATA ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

会長 庄司 薫 幹事 高橋 宏之 例会 毎週木曜 12:30~13:30 割烹 福美屋 事務局 山形県高畠町高畠 911-2-2F tel 0238-52-5440 fax 52-5444

本日の例会 [2769 th] 2026. 3. 12

株式会社 結城酒店 酒のゆうき

代表取締役 結城 秀人氏

前回の例会 [2768 th] 2026. 3. 5

東の麓酒造有限会社

常務執行役員 新藤 栄一氏

- ・ 点 鐘 1 2 時 3 0 分 青 木 道 春 エレクト
- ・ 国 歌 斉 唱 「 君 が 代 」
- ・ ローターリーの目的唱和 齋 藤 富 義 君
- ・ ソングリーダー 木 村 健 彦 君
- ・ S A A 島 崎 裕 司 君

会長あいさつ

青 木 道 春 会長エレクト

さて本日はあいにく庄司会長が欠席、副会長の加藤君も欠席ということでお鉢が回ってきました不慣れではありますがよろしくお願いいたします。つい先ほど行われた理事会においてわかりかし重要な事項が可決されましたのでこの場をお借りしてお伝えいたします。

【地区財団補助金】申請についてです。財団に関して簡単にご説明しますと、毎年みなさんから年間50 \$ 日本円にして7,500円ほど財団基金に入っております。その基金は然るべき手順を踏めば使用することが可能です。しかし、申請がちょっと難しい。申請のタイミングが毎年3月までという大前提があり、これが高いハードルとなり当クラブでは申請が毎年見送りになっていました。しかし地区内の他クラブでは申請されこの基金を使用し有意義な活動を展開されています。

高畠RCはおそらくその申請方法がわからないだけであって、まずは今年チャレンジしてみようということになりました。どんな事業が対象となったのか詳しくは後ほど会長の時間にてお伝えします。守らなければならないことは守り、新たなことには勇気をもってチャレンジしてみることが大切だと思います。

《会長の時間》

●補助金申請について(続き)

どんな事業が対象となったかについて詳しくは、今年の7月に高畠町に「子ども食堂」がオープン予定です。先がけオープンに際しての、物品だとか、看板だとか、食器だとか等々の準備に対して補助金を使っていきたいと考えています。よろしくご理解の程お願い致します。

●3月度お祝い

- 1) 誕生祝 青木 道春 君、高橋 宏之 君
- 2) 結婚記念祝 若林 智次 君

《幹事報告》 高橋 宏之 幹事

【今月のプログラム】

- 3月 7日(土) 会長エレクトラーニングセミナー
- 3月12日(木) 第二例会
- 3月14日(土) ローターリー財団寄付推進セミナー
- 3月18日(水) 3月会費引落日
- 3月19日(木) 第三例会(移動例会ひっぱりうどん)
会場:高砂屋珈琲店
- 3月21日(土) 職業奉仕セミナー
- 3月26日(木) 休会

スマイルBOX

- ・ 新藤栄一様のご来訪に感謝いたします。
木村 健彦 君
- ・ 東の麓酒造の新藤様にご講話頂きありがとうございます。
梅津陽一郎 君
- ・ 山形の生酒限定頒布会の告知。
後藤 隆暢 君
- ・ 店内イベントのお知らせ(歌手宮本静来店)。
青木 清子 君

《出席報告》

会員数	47名	出席者数	17名	出席率	36.96 %
前回修正	47名	出席者数	29名	出席率	61.70 %

《メークアップ》

吉田 弘二 君、小平 和広 君、大浦 英樹 君